

## <第15回 江戸川区景観まちづくり賞：総評>

平成24年にスタートして以来「まちなみ建築」と「まちづくり活動」の2部門を対象に表彰を続けてきた「景観まちづくり賞」ですが、昨年度の「第14回景観まちづくり賞」からは、より優れて魅力的な景観創出の事例や活動を選出したいという方針から、二つの部門を隔年で表彰する形に変更いたしました。

今回、表彰の対象となる「まちなみ建築部門」へは15点の応募があり、委員会における審議の結果、3点を「景観まちづくり賞」受賞という結果となりました。

審査に際しては、優れた景観の重要ポイントとして、周辺へ与える圧迫感が小さく街並みに調和しているか、地域に開放された空間の提供が可能か、地域の景観シンボルとなり得る工夫がなされているか、などが挙げられます。そのような観点から「K・G FLAT Residence」、「プラウドタワー平井」、そして「特別養護老人ホーム いずみ」を選出いたしました。

「K・G FLAT Residence」は、建物ボリュームを抑えた低層でゆとりのある開放的な建物構成と柔らかい外壁の色合いにより、周辺環境と調和した景観を創出している共同住宅です。敷地内には井戸やかまどベンチが設置されたオープンスペースがあり、地域の憩いの場になり得るとともに、災害時の対応も可能であることなど、近隣への大きな貢献要素を有しております。

「プラウドタワー平井」は、JR平井駅北側に位置し、店舗や共同住宅などを併設した複合施設で、地域にとっての新たなシンボルの役割を担っております。低層部は水平ラインを強調したシャープな印象で、タワー部分はアースカラーを基調とした自然の温かみを演出しており、周囲の街並みや空との調和を感じさせるデザインです。

建物外周には頼もしい中高木が配され、再開発事業によって整備された広場空間は賑わいの創出だけでなく、地域にとっての防災性の向上に貢献しています。

「特別養護老人ホーム いずみ」は鹿骨の農地が点在する周辺環境と調和した建物の中に「特別養護老人ホーム」や「重症心身障害者施設」、「カフェ」を併せ持つ施設です。建物外周には広めの植栽帯が巡り、上部のバルコニーがつくる水平ラインを基調としながら、それを分節するいくつかの大きな壁面によって単調さを破るリズムカルな外観を有しています。また、1階には就労支援カフェ、4階には防災拠点型地域交流スペースを設けることで、地域に開かれた福祉の拠点としても有効と思われます。

今後とも様々な形の景観まちづくり事例の登場によって、江戸川区の地域活性化や街並み形成に向けての取り組みが展開されることを望むとともに、多方面からの応募に大きな期待を寄せたいと思います。

江戸川区景観審議会 会長 大江 新